

特別講演 2

「高齢者の転倒予防の実践と教育」

東京大学大学院教育学研究科 身体教育学講座教授

東京厚生年金病院 整形外科客員部長

転倒予防医学研究会 世話人代表

武藤 芳照 先生

高齢者の転倒は、加齢・運動不足・疾病（使用薬剤の作用・副作用を含む）等の内的要因と建物構造等の外的要因が複合して起こる。基礎疾患としての骨粗鬆症があれば、転倒により高齢者は容易に骨折をきたし、特に大腿骨頸部骨折の場合には、入院・手術等の治療が行われても、受傷前の生活機能レベルに回復しない例ばかりか寝たきり・要介護あるいは死に至る例もある。

予防に勝る治療はないのは、高齢者の転倒・骨折・介護についても真実である。転倒のとらえ方、運動機能の評価法、教育・介入プログラム、リスク管理の具体的実践方法と内容について紹介する。